

第38回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム

－相模湾漁業の現状、課題と今後の方向について－

共 催：水産海洋学会，（公財）相模湾水産振興事業団，小田原市

日 時：2014年10月21日（火） 9：30～15：30

場 所：小田原市生涯学習センターホール（小田原市荻窪300）

コンビナー：平野敏行（東大名誉教授），松山優治（東京海洋大名誉教授），武井 正・岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団），米山 健（神奈川水技セ），石戸谷博範（神奈川水技セ相模湾試）

開会のことば：川崎秀一（（公財）相模湾水産振興事業団）

9：30～10：00

挨拶：和田時夫（水産海洋学会長）

加藤憲一（小田原市長）

武井 正（（公財）相模湾水産振興事業団理事長）

座 長：鈴木秀彌（元中央水研）、永延幹男（国際水研）

【基調講演】

「日本の沿岸漁業の現状、課題と今後の方向」

佐藤力生（元水産庁、漁業者）

10：00～11：00

【話 題】

1. 相模湾漁業が抱える課題と今後の方向

滝口直之（神奈川県環境農政水産課）

11：00～11：40

・・・・・・・・・・昼 食・・・・・・・・・・

11：40～12：40

2. 相模湾の定置網漁業の現状、課題 と今後の方向

石戸谷博範（神奈川水技セ相模湾試）

12：40～13：10

座 長：米山 健（神奈川水技セ）、杉浦暁裕（神奈川水技セ）

3. 伊豆半島海域の漁業の現状・活動状況と今後の展開

山本浩一（元静岡水技研、静岡定置協会）

13：10～13：40

4. 総合討論：平野敏行（東大名誉教授）

13：40～15：00

(1) 現場からの意見

①定置網漁業者：小田原市漁協 ②定置網漁業者：真鶴町漁協 ③定置網漁業者：いとう漁協

④刺網漁業者：小田原市漁協

(2) 討 論

閉会のことば：堀内昌詔（（公財）相模湾水産振興事業団）

開催趣旨：漁業は他の産業とは異なり自然変動を繰り返す生物資源に依存する産業であり、魚種により豊漁の時代もあれば貧漁の時代もある。生物資源には消長があるものの、生息環境を人為的に大きく攪乱しない限り復元力が働き、比較的安定した漁業生産を挙げることができる。水深が深い開放型の相模湾は、日本有数の「多種多様な海洋生物の宝庫」である。この特徴を活かし、定置網を主体に刺網、シラス曳網、巻網などさまざまな漁業が行われ、200種前後の新鮮・安全・美味しい魚介類が年に1～1.5万トン漁獲されている。そのうち約90%が日本列島の250m以浅を南北に回遊する暖水系のアジ類、ブリ類、サバ類、イワシ類などが占めている。これら暖水系魚類は10数年単位で代わり、定置網漁業ではブリ、サワラやマアジ時代には活況を呈するが、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウマズラハギなどの時代には低迷する。2011年以降待望のブリ類が獲れたが、価格は低迷している。

今回のシンポジウムは、日本の沿岸漁業の現状、課題と今後の方向について講演していただき、次に神奈川の沿岸漁業・相模湾の定置網漁業・伊豆半島域漁業の現状・課題と活動について話題提供をお願いする。「総合討論」では、現場の漁業者から意見を聞きながら議論し、海洋生物が生息しやすい相模湾の環境保全と今後の相模湾漁業の安定的な持続方策について明らかにしたいと考えている。